

新宮山彦ぐるーぶ第1995回  
台風24号後の行仙宿の巡回と  
笠捨山捲き道(旧通信道)の点検整備(倒木処理等)

◇実施日：2018年10月14日(日) 曇り一時晴

◇参加者：川島 功、沖崎吉信、児嶋道夫、濱野兼吉、上村洋司・和美、生熊千満子、山川治雄、岩本信行、梶野照雄。10名。

新宮組は川島車に児嶋、生熊さんが、沖崎車には上村夫妻、濱野が乗り込み上村洋司さんの運転で午前7時前に出発した。

昨夜の雨が未明まで残り、空模様もスッキリとした上天気にはならず、国道168号から宮井大橋を渡って北山村経由で下北山村浦向に向かう。

国道425号に入り、集落を過ぎると交通規制の看板があり、そこにガードマンが待機している。日曜日は規制が解除されているはずだが・・・、確認すると解除しているとのこと、行仙宿補給路登山口をめざす。

周辺の山々は紅葉には少し早い、今年は台風の強風で葉っぱが飛ばされ、例年のようにならないだろう。



登山口に到着



登山口の鉄階段登る



モノレール終点にて

補給路登山口に到着すると、熊野市の山川、岩本組が先着、程なく堺の梶野さんも見え、モノレールにチェンソーやザックを積み込み、それぞれ行仙宿小屋に向かって出発。

私は久方ぶりの山行で息が切れる。途中七曲、十五曲、中峪、上峪等の標識を眺めて、改めて平凡なことだけでも、距離や時間感覚が判り、後もう少して目的地に到着だ、もうあと一踏ん張り頑張ろうと元気がでる。こういう計らいは非常に有難いと感謝する。

第二ベンチを過ぎた所でチェンソーが轟き、馬酔木(アセビ)が道を塞いでいたのか、傍らに小切られている。



No.1 鉄塔下の支障のアセビ切除、

行者堂横の斜木杉の切除

行仙宿小屋に着くと、行者堂横の杉が傾き正常な杉に枝が引っ掛っている状態で、枝が折れ倒れると道を塞ぎそうなのと行者堂の屋根にも影響がありそうなので、梶野さんが梯子を掛けて登り、屋根に当たらず倒れるようにロープを結わえる。

山川さんがチェンソーで切り、私と岩本さんが掛けたロープを引っ張って安全な方向に倒して、枝が払われて適当な長さに小切り片付けられる。



風斜木杉が倒れると行者堂の損壊が免れるず切除

その間に他の人達は、大ハンマー、チェンソー、ジョレンやトンガ、ツルハシ、くい丸支柱が揃えられ、笠捨山捲き道整備の出發準備が整う。私はトンガ、ツルハシ、くい丸支柱1本を持つ。出發してすぐに道を塞ぐ腐朽倒木がありチェンソーで切除する。笠捨山捲き道(旧通信道)の分岐では、釘で打ち付けていた標識板が台風で飛ばされていたのを拾い、又「通行不可」の新標識を打ち付ける。



もたれ掛けの腐朽倒木切除

分岐に通行不可の標識設置

笠捨山捲き道(旧通信道)は、猪が餌を探して道が随分荒されて

いる。川島さんは浮いた栈木と木杭を大ハンマーで叩きながら、児嶋さんはそのをトンガで修復しながらすすむ。両手に持ったくい丸、トンガ、ツルハシはバランスが悪く苦勞する。

No23鉄塔への分岐尾根を過ぎ、心配した捲き道の箇所は下を通る道は崩落しているが、上に廻れば捲き道も残っている。私たちは中間の所を児嶋さんが足場をトンガで作りながら進む。No24鉄塔上のベンチで休憩。

此処までは以前と殆んど変わらない状態に戻った。



浮いた栈木・木杭叩く 倒木の支障の枝切除

No24鉄塔ベンチで休憩

しばらく行くとミズナラ、カエデ、ヒメシヤラの木数本が、風で根元から剥がされて倒れ道を塞いでいる。枝を全部切ると根返りした倒木がズリ落ちる事が想定され、慎重に枝を選んで歩行に支障ない高さに切除する事にする。

いよいよチェンソーの出番。岩本、梶野の両名はエンジンを掛け早速切断にかかる。児嶋さんのチェンソーは朝エンジンを掛けて試して来たがとボヤクが：またしてもチェンソーは作動せず。どうやら高地では気圧の関係でこういうことがおこるらしい。

チェンソーが挟まってしまいが、梶野さんは楔を持参され楔を打ち込んで外して作業を続ける。

岩本さん使用のチェンソーは、岩に当たったのか極端に切れが

悪くなる。



流入土砂を排除



倒木の枝切除と処理後の捲き道



直ぐに大木(径90cm程)が道を塞ぐが、身をかがめて通ったが、梶野氏は割れ裂けた径60cmの幹をチェーンソーで切除して、通れるようにして下さる。



倒木の下をくぐる



大倒木を切除する



岩の狭い足場を辿り横切る

私達は先に進み標識5から先の支谷は崩落している。支谷手前の橋が垂れ下がり、岩盤露出箇所狭いスタンスの岩棚を辿り横切る事が出来るが、今日はこれ以上の整備は無理と見て引き返し、苔むした岩が累積する箇所から奥駆道に登り返す。沖崎さんはバ

ンデージェテープで奥駆道尾根出合箇所の立木にマーキングをする。チェーンソー班も合流し拓けたP1170mの山頂で、日も差してきて昼食をとる。児嶋さんはお湯を沸かしコーヒを淹れ、上村さんの饅頭や生熊さんからお菓子の差しいれがあり、和やかに食後のひとときを過ごす。



P1170mで昼食



本日の参加者

帰路、尾根の崩落している所はロープが弱くなっている、児嶋さん持参のトラロープで補強する。支柱杭2本は、ヒメシヤラを切り調達して打ち込み、転落防止の応急措置をする。その後、山川さんは道を塞ぐ倒木をチェーンソーで処理される。



トラロープの張替え



倒木切除後



大峯八大金剛童子

私は大峯八大金剛童子の大檜が好きで、霧が晴れないかと待つが日は差さず、何枚か写真に撮って帰路に着く、皆さんと随分遅れるが行仙宿小屋に戻る。

岩本さん使用のチェンソー(山彦G備品)が、全く切れなくなり、豆腐も切れないと嘆き、小屋に戻ってチェンソー刃をヤスリで研ぎ直し、朝倒した杉の木で試し切りするが切れ味は思わしくない。梶野さんのチェンソーと比較するが、全く切れ味が違う。チェンソー刃を交換する必要がある。

それぞれ道具を片付け、小屋の周りに飛散した小枝や落葉をブローで処理。女性陣は小屋の中の整頓をしてコーヒーマシンを淹れ、お菓子が出て談笑し、14時10分に行仙宿を下山する。

補給路登山口横の支谷は、台風20号の豪雨により、排水溝口が大きな流石で塞がり、ガードレールの高さ迄流石土砂で埋まり、谷が増水する毎に林道路面に土石が堆積する事から、下北山村に支谷に堆積した土砂除去の要請をお願いする為に、現状の状況写真を撮った。

来週は下北山村から頂く丸太棧木の防腐剤の塗布作業等を行うので、協力よろしくとの報告を受け、少し早い各自帰路に着く。



チェンソー刃の目立て

登山口横の支谷が土石で埋まる

### 行動タイム

新宮7:00→8:20登山口8:25→9:05行仙宿9:30→9:50笠捨山捲き道分岐→10:25No24鉄塔ベンチ10:35→捲き道標識(No5)地点  
11:30→11:45奥駆道尾根→11:55P1170m(昼食)12:30→12:35八大金剛童子→13:05笠捨山捲き道分岐→13:15行仙宿14:10→14:40登山口14:50→16:20新宮。

(記：濱野、写真：梶野・川島)